



✓ 季節の変わり目に起きる問題【冬から春】

冬の寒い時期から段々と暖くなるタイミングで何故か排水処理の調子が悪くなってしまふ…。そんな経験が一度はあると思います。今回はその問題が起きてしまう原因と対策をご紹介します。

原因

1. 水温の変化

A) バクテリアの活性度増加に伴う栄養不足や発泡

バクテリアの活動に適した水温になるとその分解能力が増します。この際に管理を誤ると分解過多によるエサ不足で自己酸化を起こし、曝気槽の発泡や活性汚泥フロックの解体に至ります。

B) 溶存酸素量の変化

水温が上昇することで酸素溶解度は下がります。またバクテリアの活動に適した水温に近づくと内生呼吸は増します。このことから冬期は酸素が十分に入っていたとしても水温が上がることで酸素不足となり処理水質の悪化や、ひどい場合は悪臭発生に至ります。

2. 配管内の油脂分の流入

配管内に蓄積していた油脂が気温の上昇により溶けだし、曝気槽へ流入することで曝気槽の発泡、放線菌の繁殖、酸素不足、未分解による処理水質の悪化に至ります。

対策

1. 水温の変化

A) バクテリアの活性度増加に伴う栄養不足や発泡

MLSS の調整を推奨致します。曝気槽の水温がバクテリアの適正水温に近づくとバクテリアの活性度が向上し、必要な MLSS 量は減少します。ただ適正 MLSS はその他の側面からも検討が必要となりますのでご相談ください。遅効性栄養源配合バイオ製剤〔SANA-BASE-5〕の添加により自己酸化を予防する対策も有効です。

B) 溶存酸素量の変化

水温が大きく変化する時期は DO の測定をまめに行い、一定を保つことを推奨いたします。DO 不足となる場合は内生呼吸による酸素消費を減らすため MLSS を下げる操作も有効となります。臭気が発生してしまった場合は消臭試験等を行い、より効果的な消臭対策をご提案いたします。

2. 配管内の油脂分の流入

〔SANA 油ツール〕の添加を推奨いたします。当剤は化学的・生物的なアプローチで油脂の微生物分解を促進し、油脂流入による弊害を防ぎます。

発行者

 株式会社 サナ

本社

埼玉県所沢市東所沢
和田 1-41-6
TEL : 04-2946-2341

北関東営業所

埼玉県本庄市児玉町
児玉 1558
TEL : 090-2476-0616
(武井携帯)

東北営業所

岩手県一関市滝沢字
矢ノ目沢 73-262
TEL : 0191-26-3737

九州営業所

福岡県糟屋郡粕屋町
上大隈 435-1
TEL : 092-939-3716

要望は
こちらから▼

